

聖霊降臨後第16主日（特定19）（聖書協会共同訳）

神よ、あなたに寄らなければわたしたちはみ心にかなうことができません。どうか何事をするにも、聖霊によってわたしたちの心を治め、導いてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

旧約聖書 シラ書（集会の書） 27章30—28章7節

27:30 憤りと怒り、これらも忌まわしいものだ。罪深い人はこれらを持つ。28:1 復讐する者は主から復讐される。主はその罪をいつまでも記憶にとどめておられる。2 隣人の不正を赦せ。そうすれば、祈り求めるとき、お前の罪は赦される。3 人が互いに怒りを抱きながら、主に癒やしを求めようというのか。4 自分と同じような人間に憐れみをかけずに、自分の罪について、祈り求めようというのか。5 肉にすぎない者が憤りを抱き続けるなら、一体誰が彼の罪を赦すことができようか。6 自分の最期を胸に刻み、敵意を捨てよ。、腐敗と死を胸に刻み、戒めを守れ。7 戒めを胸に刻み、隣人に恨みを抱くな。いと高き方の契約を胸に刻み、過失は見逃せ。

詩 編 第103編

- 8 主は恵み豊かに、憐れみ深く // 怒るに遅く、慈しみは深い
- 9 常に憤る心を鎮め // いつまでも怒りを続けられない
- 10 罪に従ってわたしたちをあしらわず // とがに従って罰を下すことはない
- 11 天が地より高いように // 神を畏れる人への慈しみは大きい
- 12 東と西が果てしなく遠いように // 神はわたしたちを罪から引き離される
- 13 父が子供を憐れむように // 主の憐れみは、神を畏れる人の上にある

使徒書 ローマの信徒への手紙 14章5—12節

5 ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。おのおの自分の考えに確信を持つべきです。6 特定の日を重んじる人は主のために重んじます。食べる人は主のために食べます。神に感謝しているからです。また、食べない人も

主のために食べません。神に感謝しているからです。7 私たちは誰一人、自分のために生きる人はなく、自分のために死ぬ人もいません。8 生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものでした。9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。10 それなのに、なぜあなたは、きょうだいを裁くのですか。また、なぜ、きょうだいを軽んじるのですか。私たちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。11 こう書いてあります。

「主は言われる。『私は生きている。すべての膝は、私の前にかがみ、すべての舌は、神をほめたたえる』と。」

12 それで、私たちは一人一人、自分のことについて神に申し開きすることになるのです。

福音書 マタイによる福音書 18章 21-35節

21 その時、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、きょうだいが私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22 イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍まで赦しなさい。23 そこで、天の国は、ある王が家来たちと清算をしようとしたのに似ている。24 清算が始まると、一万タラント借金している家来が、王の前に連れて来られた。25 しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26 家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返ししますから』と懇願した。27 家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、借金を帳消しにしてやった。28 ところが、この家来は外に出て、百デナリオン貸している仲間の一人に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29 仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』と頼んだ。30 しかし、承知せず、行って、借金を返すまでその人を牢に入れた。31 仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛み、主君に一部始終を報告した。32 そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈き者。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。33 私がお前を憐れんでやったように、お前も仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』34 そして、主君は怒って、借金を全部返すまで、家来を拷問係に引き渡した。35 あなたがたもそれぞれ、心からきょうだいを赦さないなら、天の私の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」